

# ちば里山新聞

(第 49 号)  
 編集発行 NPO 法人ちば里山センター  
 袖ヶ浦市長浦拓 2 号 580-148  
 ☎ 0438-62-8895  
 題 字 倉島 貴浩  
 (ワークホーム里山の仲間たち)

ちば里山新聞は千葉県からの事業委託を受け、特定非営利活動法人ちば里山センターが編集発行しています

## 木の実のツリーやクイズで賑わい

「エコプロダクツ 2016」に参加 12 月 8 日～10 日



「環境とエネルギーの未来を考える」をテーマにした「エコプロダクツ 2016」が、平成 28 年 12 月 8 日から 10 日まで東京ビッグサイトで開催され、ちば里山センターは、東 1 ホールで行われた「森から始まるエコライフ展」に出展しました。主催は、(一社)産業環境管理協会、日本経済新聞社。

当センターブースでは、パネルの展示や活動チラシの配布を中心に、里山相談、安全講習、里山体験日帰り・宿泊ツアーなどの案内や募集を行いました。



総来場者数は昨年並みの 16 万人超。里山センターブースにはおよそ 1000 名の小中学生ほか大勢の来訪者でにぎわいました。

当センターブースで行われたイベントの概要は以下の通り。

◆里山環境学習の一環として、「木の葉をラミネートしたしおり」や「木の実を貼り付けた台紙」をつくり、その名前を当てるクイズに参加してもらい、正解者にしおりや木の実をプレゼント。(写真④⑤)

◆「ダイオウショウ」や「ツルかご」の展示・販売。

◆「マツカサ」にビーズやモールなどの飾りをつけた「ミニクリスマスツリー」の製作実習。



◆マツカサを積み重ねてゆく「まつかさタワー」の作成。

(写真⑥⑦)

◆「クロモジ・アロマウォーター」(木更津市の里山団体が公的な研究機関等と共同開発した試供品)の展示。

(写真⑧⑨)



# 「ちば里山カレッジ」の集大成

## H28.12.3 「フォローアップ研修」終了

「ちば里山カレッジ」を締めくくるフォローアップ研修がこのほど修了しました。この研修は 4 回にわたって行われ、延べ 148 名が受講しました(第 1 回～第 3 回は里山新聞 47 号、48 号にて既報)。

最終回の 12 月 3 日は、千葉県緑化推進拠点施設と清和県民の森で、「セラピープログラムの体験と森林の療法的活用」に関する講座が開かれました。指導を担当した白井講師は、「セラピープログラムの効果については、自然治癒力がより正常化するととらえたほうがよい」と締めくくりました。

体験プログラムではセラピーコースで自然観察を行い、木の葉を用いた“晩秋のステンドグラス”の工作や“樹木のゲーム”などを楽しみました。

平成 25 年度から始まった「ちば里山カレッジ」の修了者は 4 年間で延べ 332 名となりました。(「ボランティア養成講座」、「次世代リーダー養成講座」、「フォローアップ研修」の実施概要は下表の通り)。



「ヤホー！」 清和県民の森で

	項目	内容
ボランティア養成 H25 年度 H26 年度 H28 年度	講義	里山保全、里山ボランティア活動、里山管理技術、里山整備の安全と技術、千葉県の森林と里山の特徴、生き物とその保護、人工林・広葉樹林・竹林、生物多様性について
	実習・研修	里山整備作業、セラピープログラム、フィールド研修、インターンシップ
	見学	里山活動団体、東京大学千葉演習林
次世代リーダー養成 H26 年度 H27 年度	講義	市民活動と里山活動、里山活動における社会的起業、人工林管理 木製品の開発、活動資金調達と組織運営、林業・林産物振興
	実習・研修	木質バイオマス利用、製炭技術、セラピー効果、インターンシップ
	見学	里山活動団体
フォローアップ 研修 H28 年度	講義・実習	チェーンソーの整備と目立て
	講義・実習	竹炭&竹パウダー製造、ロープワーク
	講義・実習	里山活動ときのこについて、観察・採取と解説
	講義・実習	森林の療法的活用について、セラピープログラムの体験

## 獣害対策のノウハウなど

### 農林総合研究センター 林業部門試験研究成果発表会開催

1 月 27 日、千葉県農林総合研究センター森林研究所による林業部門の研究成果発表会が、さんぶの森文化ホールで行われました。林業をはじめ、野菜や果樹、花・植木など各分野における農林水産業に関する最新の研究成果を発表するもので、今回は、県内多くの箇所で課題となっているイノシシやシカなどの獣害対策やマツ材線虫の発生しやすい土地などをテーマにした研究成果が報告されました。

#### <テーマ>

- イノシシの被害を減らすためには竹林対策が必要
- シカの食害が少ない特用樹・山菜
- 下層植生を指標としたクロマツ林造成適地の判定方法
- マツ材線虫病が海岸砂地で発症しやすいのはなぜか？





# 若者・女性の参加多く

## ちば里山LIFE体験交流事業終わる

今年度「ちば里山LIFE体験交流事業」が、2月12日の最終回をもって終了しました。本事業は、主として首都圏在住者に“ちばの里山”の魅力に触れてもらい、千葉県への来訪・移住を促進し、地域の活性化を図るもので、地方創生加速化交付金を受けて平成28年6月から進められてきました。



仕上がったエコ断熱改装家屋で (1/15)



千葉県産食材づくしのお弁当

首都圏在住の学生や女性・子育て世代を対象とした「ちばの里山魅力発掘体験事業」(9回)と千葉県内里山団体関係者を対象とした「里山地域の魅力PR事業」(3回)を合わせ全12回のイベントが実施され、若者特に女性を軸に延べ600名が参加しました。(下表)

### 古民家の改装DIY体験に挑戦

子育て世代を対象としたイベントでは、NPO法人南房総リパブリックの指導で「DIYエコリノベーションワークショップ」が行われました。ワークショップの会場は南房総市上滝田の古民家。天井、畳、床、障子にそれぞれ断熱施工を施し、冬暖かく、夏涼しい快適な住まいにリノベーションするDIY体験が行われました。(写真⑥⑦)

千葉県産食材づくしのお弁当

### 里山の遊び・楽しさを極める

昨年12月7日は、県内の里山関係者を対象に市原市古敷谷のフィールドで箸やカップ作りを行い、できた食器で昼食のジビエ料理を味わいました。また、ミニ門松などの正月飾りを製作しました。

また、女性を対象にした里山体験交流事業も盛り上がりました。昨年11月23日の澁澤寿一氏の講演(「自然とともにある暮らし」)を受け、今年1月21日、市原市東国吉の「ふれあいの森」で、林業女子会@東京の体験イベントが行われました。“ノコギリ初心者”もあわせて18名が参加しました。

さらに、2月11日、12日は船橋市、山武市、東金市、市原市のフィールドでシイタケ駒打ち体験、千葉県林業の講義、木材市場の見学、森林整備体験が行われました。

月日	会場	参加	内容
<b>◇学生対象事業</b>			
6/25	東京都	117	講演(C. W. ニコル「アフアの森づくりに学ぶ」)
8/11	君津市	38	竹伐体験、伐倒・ツリークライム見学
9/24・25	市原市、鴨川市 長南町、東金市	27	竹伐体験、棚田見学・講義、 里山フィールド・木材市場見学
<b>◇女性対象事業</b>			
11/23	東京都	46	講演(澁澤寿一「自然とともにある暮らし」)
1/21	市原市	18	篠竹伐採体験、伐倒、上総掘り見学
2/11・12	船橋市、山武市 市原市、東金市	23	シイタケ駒打ち体験、山武林業講義、 木材市場見学、森林整備体験
<b>◇子育て世代対象事業</b>			
11/12	東京都	28	講演「南房総のある暮らしのつくり方。」
1/7・8	南房総市	29	DIY体験(エコリノベーションワークショップ)
1/14・15	南房総市	32	DIY体験(エコリノベーションワークショップ)
<b>◇里山地域の魅力PR事業</b>			
10/8	君津市	80	講演(清水宏「地域の誇りと日々の生業を考える」)
10/22	木更津市	22	講演(高原和江「食の視点から里山の魅力を」)
12/7	市原市	44	製作体験(竹箸・カップ作り、正月飾り、ジビエ料理)

ちばの里山LIFE体験交流事業一覧(参加欄の数字は人数)

# 「里山活動に参加したい！」の声も

## 金親理事長、「暮らしと環境を考える講座」で講演

平成 29 年 1 月 21 日(土) 袖ヶ浦市環境管理課主催「暮らしと環境を考える講座」第 2 回(全 4 回)が、袖ヶ浦市民会館 3 階中ホールで開催されました。



今回のテーマは「里山を知ろう・私たちの生活と

のかかわり」でちば里山センター金親理事長が講演しました。

まず里山とは?から始まり、私たちの生活とのかかわり、里山の管理方法を学び、千葉県の里山の現状についての説明がありました。講演後、質疑応答も活発に行われ、里山活動にぜひ参加してみたいとの声も上がりました。受講演終了後、受講者には金親理事長及び椎の森里山会から苗木のプレゼントも行なわれました。(写真④)

なお、第 3 回では、椎の森自然環境保全緑地(しいのもり)で「里山を体験しよう・里山散策・シイタケの駒打ち体験」となります。

### 安全を見直す

### <その2>活動記録を残そう

～まずは簡単な日報から～

日頃の活動の様々な経験やノウハウを記録して確認し合うことは安全の面からも重要です。あまり気張らずに、簡単な日報から始めてはいかがでしょうか。松戸里やま応援団の高木さんから以下のような報告が寄せられましたのでご紹介します。

「活動の歴史やフィールドの変化の過程をきちんと残しておくことは欠かせません。たとえ事故やけがなどのマイナス情報であっても、なぜ、どういう状況で起きたのかをきちんと記録しておくことは再び起こさないためにも重要です。事故に至らなくても、”ヒヤリハット”の状況も記録し、仲間で共有することが大切です。松戸里やま応援団では、グループ(フィールド)ごとに、必ず毎回の活動記録をきちんと残し、それを応援団全体に送り、活動状況や問題意識を共有し合うこととしていきます」

### 里山の風にゆられて ⑤



#### ヤブツバキ<藪椿> ツバキ科ツバキ属

里山の冬は華麗な花に乏しい季節ですが、それでも寒さに耐えて咲く花があります。ヤブツバキは数多くある華やかな園芸種の前種ですが、サザンカと違って合弁花なのでおしべごと首から落ちてしまい縁起の悪い花とも言われます。実は球形で熟すと3裂に弾けて落ち、実を絞ると椿油が採れ化粧品等の原料となります。

(写真・文 赤松義雄 H29.2.2 袖ヶ浦市椎の森で)

～～編集後記～～ ●多くの人は、白い花が咲く梅を白梅、赤い花が咲く梅を紅梅と思っている。しかし、日本造園組合連合会著による「庭木の剪定と整姿小百科」という本の中に「紅梅系とは木を切ったときに切断面が赤い木のことで、赤い花が咲くから紅梅系というのではない。花が白くても木部の内部が紅色のものは紅梅系だ」と書いてある ●インターネット情報によれば『その木が紅梅か白梅かは咲いた花の色ではなく、この木の幹の断面の色によって決められている。「白い花の咲く紅梅」や「赤い花の咲く白梅」というものもあり得る。1本の木に白い花と赤い花の両方が咲くようなこともあるという。』 ●実際に私は赤い花の咲く白梅を何本か見ている(白い花の咲く紅梅はまだであるが…) ●樹木や自然の世界は、まだまだ私たちの理解を超えた奥深い世界の世界である。(S・O)

### 入会申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓 2 号 580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896 (平日 9:00~17:00)

E-mail [info@chiba-satoyama.net](mailto:info@chiba-satoyama.net) HP <http://www.chiba-satoyama.net>